

「航空学生訓練と遠州の空っ風」

【第12回】航空学生訓練と遠州の空っ風

航空気象群ホームページのコラム「気象の杜」による。今回は、静岡県焼津市にある静浜気象隊からお届けします。

静浜基地は、航空自衛隊の基地では最小の敷地面積です。滑走路の長さは約1500mと飛行場の滑走路としては非常に短いのが特徴です。主たる任務は、航空学生に対する航空機操縦者としての教育（初級、基本操縦課程）で、第11飛行教育団が配置されています。私たち静浜気象隊は、飛行場の気象観測と予報を行い、飛行訓練を実施する飛行隊へ気象情報を提供することで学生が日々安全な訓練が実施できるように努めています。（ちなみに、全国の気象隊は基地の任務や飛行場の位置する地形的特性から様々な特徴がありますので、以後のコラムもお楽しみにしてください。）

学生たちが訓練を重ねる静浜飛行場は太平洋側にあり、年間を通じ日本海側の各飛行場と比べると天気



の良い場所に位置しています。しかし初級学生が訓練飛行をするためには、訓練内容により様々な気象の制限が決められており、きめ細やかな気象情報を提供しています。

学生たちの訓練の基本となる飛行方式は、有視界飛行方式（VFR: Visual Flight Rules）といい、パイロットが目視によって航空機を操縦する飛行方式で、有視界気象状態（VMC: visual meteorological conditions）という国際基準の気象制限値が定められています。やや専門的になりますが飛行場では、全周の半分以上に共通な視程（基準をもとにした水平距離の見える距離（大気の混濁度）を示す気象用語）が5km以上、全天の8分の5以上を覆う最も低い雲の高さが1000ft（約304m）以上となっています。（気象観測の単位は、視程をメートル法で雲の高さをヤード法で表します）

「遠州の空っ風」

太平洋側に位置する静浜飛行場は、冬型の気圧配置の場合はよく晴れますが、北西の季節風が強く吹きます。このように地域により特性のある季節風には各地方で固有の呼び名があり、「赤城おろし」や「六甲おろし」など、いろいろな言葉がありますが、ここ静岡県では「遠州の空っ風」と言われています。この



風は、強風のため、雲一つない晴天でも基準値を超える強風になると学生の訓練飛行ができない事があり、「空っ風」の予想は気象隊を大いに悩ませることがあります。しかし、私たち気象隊では、「雨にも負けず、風にも負けず」の心意気で、一丸となって安全な学生訓練のため、日々任務にまい進しています。なお今年の静浜基地の航空祭は5月28日となっています。T-7の雄大な大規模編隊飛行が計画されていますので、富士山とT-7のコラボを是非見に来てください。